

「国際理解教育の推進と地域に開かれた学校を目指して」

北海道清里高等学校 飯田 知 男
担当者 福田 淳 史

1. 趣旨・本校ESDの特徴

地域との連携を重視した教育活動や学校運営を推進している。町教委と連携しているニュージーランドへの海外派遣研修、交換留学制度を軸に国際理解教育には特に力を入れている。また、地域の関わりやつながりを尊重できる力を育むために地域ボランティアを始め、生徒が本校の地域での役割を果たし、人とのつながりを実感できる教育を推進している。

2. 活動・全体計画

月	国際理解教育	地域に開かれた学校を目指して	その他（異文化理解など）
4	・モトエカ交換留学生受け入れ	・エコキャップ回収開始（通年）	
5		・全校ボランティア	
6	・海外派遣研修プレゼン準備開始	・駅前等の花壇整備 ボランティア	
7	・海外派遣研修プレゼン準備	・清里町サマーフェスティバル「樽祭」ボランティア ・ふれあい広場 ボランティア ・ジャガイモ栽培開始 ・清里高校 学校祭開催	
8	・海外派遣研修プレゼン準備	・「清里町神社祭典」ボランティア	
9	・海外派遣研修 ・本校交換留学生帰国	・「斜里岳ロードレース」ボランティア ・ジャガイモレシピ開発	
10	・海外派遣研修報告会準備	・「交通安全街頭啓発活動」ボランティア	・ユネスコフォーラム「アイヌの精神文化を学ぶ」
11	・海外研修報告会（清里中学校）	・赤い羽根共同募金	
12	・海外研修報告会（保護者）	・ジャガイモ選手権 ・「特産品の夕べ」	・南極教室
1	・モトエカ交換留学生帰国		
2	・今年度計画の総括	・同左	・同左
3	・次年度計画の策定	・同左	・同左

3. 活動事例

(1) 国際理解教育の推進

○海外派遣研修（1年生希望者 ニュージーランドへ）

○姉妹校との交換留学事業

(2) 地域に開かれた学校を目指して

○町施設における学校祭の開催

○地域ボランティアへの参加

○ジャガイモ選手権

(3) その他

○異文化理解の講演

・「南極で越冬した医師の独り言」 講師 及川 欧 氏

・「アイヌの精神文化を学ぶ」 講師 結城 幸司 氏

4. 成果と課題

(1) 国際理解教育

海外派遣研修に、今年度34名の生徒が参加した。研修の目的は、「国際理解を推し進めた上で日本文化の再発見をすること。」である。事前指導で際立ったのが、日本独特の文化を英語で表現することである。身近なものを他国語で説明することは、生徒が日本文化を考え直し、表現を工夫して伝える意識を持つことにもなり、日本文化への理解と国際理解に深まりを見せた。

(2) 地域に開かれた学校を目指して

本校の学校祭は、地域イベントとしての役割を担うことを目的に、清里町生涯学習総合センターで行われており、今年で3年目となる。学校祭の開催場所を校外へ移すことにより、清里町教育委員会やPTAの支援を受けやすい状況となった。

ジャガイモ選手権では、授業を通じてジャガイモを使った新たなレシピ開発を行った。選手権で優勝した「清高サンド」は、今年度、商工会主催の「きよさと特産品のタベ」に参加し、多くの来場者から好評を得た。生徒は、開発から提供までを体験することで、地域に対する新たな価値を発見した。

(3) その他

異文化理解の講演「南極教室」では、未知の土地の現状やそこでの日常生活を見聞き自分たちが住んでいる土地と比較することで、改めて地球環境についての知識を広げることができた。「アイヌの精神文化を学ぶ」では、現代のメディアを利用したものもあり、生徒は北海道のルーツを深く知ることによって新たな共生の視点を得た。

(4) 課題

国際理解教育は、これまでと同様に継続していくが、発展性を考慮する余地がある。学校が地域イベントに参加することでの効果を実感しているため、地域での役割を地域と共有できることが次の目的となっている。

異文化理解の講演については、地域へ案内をすることで地域発展にも寄与できるため、次年度以降どのような企画を考えていくかが課題である。